

「懲らしめから立ち直りへ」拘禁刑の開始 1 年を経て 刑務所の内と外の人権意識と実態から考える支援の実践

全国の刑務所で「拘禁刑」が開始されて 1 年が経ちました。報道等では「懲らしめから立ち直りへ」のメッセージが盛んに発信され、“刑務所は変わった”と強調されています。実態を見ると、高齢・障がい受刑者に対する処遇等、時代に即した変化はあったものの、特別な処遇に割り当てられない受刑者は、これまでと変わらない日常を送ります。正確な情報を共有したうえで、「よりよい刑務所処遇とは何か」、皆さんと考えたいと思います。

また、刑務所を出所した元受刑者に向けた支援事業・活動にも注目が集まる中、「再犯防止」にとどまらず、当事者に必要とされる、また社会から期待される支援とは何か、意見・アイデアを共有できれば幸いです。

皆さんのご参加をお待ちしております。

■ゲスト：塩田祐子さん



監獄人権センターのボランティアスタッフを経て、2014 年より同職員。刑務所・拘置所の中の人権（主に刑務官から受刑者への人権侵害）に関する相談に対応している。全国の受刑者から寄せられる手紙相談は年間 1200 件。刑務所を出所した人からの生活相談にも対応。死刑制度、刑務所処遇をテーマに執筆活動も行う。22 年に東京府中 FM で放送を開始した「刑務所ラジオ」（FM87.4MHz、毎月第 2 月曜日 22 時～）。公式無料アプリでは全国から聴取可能）では、制作とパーソナリティを務める。

青木知明さん



10 代よりアルコール・薬物を乱用、非行に走り指定暴力団の構成員となる。20 代で薬物・覚せい剤・賭博・恐喝等の罪で服役した後、長距離トラック運転時の業務上過失致傷罪で再度服役。出所後、5 回の精神病院の入退院を重ね、36 才で自助グループとつながる出会いから更生し、現在、NPO 法人 ジャパンマック 地域活動支援センター川崎マック施設長を務める。依存症からの回復支援、刑務所出所者支援、教会の炊き出し、川崎水曜パトロールの会と協働して野宿者支援活動に力を入れている。川崎マックでは横浜保護観察所や更生保護施設で薬物再乱用の防止プログラムを行い、自立準備ホームとして依存症回復プログラムの指定を受けている。

津富宏さん



東京大学教養学部卒業後、法務省で法務教官として働き、その間、ウィスコンシン大学マディソン校で社会学修士号を取得。犯罪学・評価研究・青少年自立支援を専門とする。2002 年に静岡県立大学に移り、24 年から立教大学コミュニティ福祉学部特任教授を務める。「静岡方式」の就労支援で知られ、困難を抱えた人々の変化に関心を持つ。

■日時：2026 年 7 月 4 日（土）13：30～16：00 ※受付時間 13：15～

■会場：オンライン開催

※Zoom を使用します。参加方法の詳細は、お申込みくださった方に開催前日までにメールいたします。聞くだけの参加も可能ですが、この対話の場を一緒につくれるよう、お声を出していただけましたら幸いです。参加者さまのお顔は写らないよう初めはこちらで設定しますが、ご発言の際は自主的にお顔を写していただけます。

■参加費：無料 ※先着 50 名様。申込の締め切りは 26 年 7 月 2 日または定員に達した時点の早い方。

■主催：NPO 法人まちぼと ソーシャル・ジャスティス基金 <https://socialjustice.jp/> メール info@socialjustice.jp

■お申込みページ：<https://socialjustice.jp/20260704.html> ※事前のお申し込みが必要です。